

## 昇段審査の実施結果及び寸評（新発田審査会）

本年初の降雪に見舞われながらも、粛々と受審者が集まり、会場の新発田カルチャーセンターにおいて昇段審査会を開催しました。

主管の新発田市剣道連盟の「審査実施にあたっての新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」に沿い、係員、受審者の協力のもとで初段から五段まで86人(形再審査4人含む)の審査を受験者の会場への入れかえを行うなどし、安全対策を施しながら無事終了することができました。

合格状況については別表を見ていただくこととして、この度の受審風景から考えさせられたことについて少々述べさせていただきますと思います。

審査にあたっては初段から五段まで、実技には「切り返し」を行っています。今一度、このことについて理解を深めてみましょう。「切り返し」とは、正面打ちと連続左右面打ちを組み合わせた剣道の基本動作の総合的な基本・基礎稽古法です。その目的は剣道の「構え(姿勢)」、「打ち(刃筋や手の内の作用)」、「足さばき」、「間合の取り方」、「呼吸法」さらに「強靱な体力」や「旺盛な気力」などを養い「気・剣・体一致の打突」の習得をねらいとしています。

それでは打ち方の方法は、正面を打って前進をしながら左右面4本（左→右→左→右）、後退しながら5本（左→右→左→右→左）、さらに後退しながら間合を取り中段の構えから正面を打つ（これを1回とする。）

打ち方の留意点については、遠い間合で正しく中段に構え（「構え(姿勢)」、「竹刀の握り方」）で、一足一刀の間合につめる。初心者の段階では、特に「動作を大きく」「正確に」行う事を旨として、いたずらに早い事を望まず、「ゆっくりと確実に」行う。肩の余分な力を抜いて柔軟に左右均等の打ちをする。連続左右面打ちの角度は45度ぐらいで行う。動作は常に正しい足さばきを伴い、特に後退の際の引き足が「歩み足」にならないように。振りかぶった時に、左拳を必ず頭上まで上げ、打ち下したときには左拳が鳩尾よりも下にさがりすぎたり上がり過ぎない。左拳は正中線上を上下に移動する。息のつなぎ方は、初歩段階では正面を打ち相手に接近したところで息を吸い、左右面を打ち終わり間合をとり、正面を打ったところで息をつなぎ、残心を示す。相手の竹刀のみを打ったり空間打ちをすることなく、伸び伸びと確実に竹刀の打突部で左右の面部を打つ。頭や腰、膝などで調子を取って体の上下動を大きくしない。退りながら左面を打った後正面打ちは息づきをしないで正確に打つ。習熟するにつれて、旺盛な気迫をもって息の続く限り一息で、体勢を崩しことなく連続左右面を打つ(剣道社会体育教本から抜粋)。「切り返し」については何度か寸評で申してまいりました。剣道を正しく修練する最も大切な稽古法でありますので今一度見直していただければと思い記しました。来年の2月には新津会場で審査会が予定されています。改善されることを期待します。

審査委員長 遠山正宣